

日増しに秋も深まり、東北や信州からは早や紅葉だよりが届く季節になりました。現在会員登録数 2,136 人さま。次号は 11 月 22 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
  - 《1》この本読んだ？
  - 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する
  - 《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 74
  - 《4》行って来ました！
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■-----■  
【1】お知らせ

●「第 33 回 日産 童話と絵本のグランプリ」締切迫る！  
アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは 10 月 31 日（月）です。詳細は↓↓  
[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 研究紀要の原稿募集  
当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 30 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓  
[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

● 寄付金を募集しています  
当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。  
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*  
《1》この本読んだ？ Yasuko's & Satoko's Talk  
\*\*\*\*\*  
『百年後、ぼくらはここにいないけど』 長江優子/著 講談社 2016年7月  
対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学3年生の健吾は、友だちの太陽（たいひ）が突然転校したため、地理歴史部の部長になり、部員5名で文化祭に100年前の渋谷のジオラマを作ることになる。全員で渋谷の町を歩いた後、ジオラマ製作経験者の健吾が設計図を書いて道具なども指示するが、健吾には太陽や渋谷駅で別れたガールフレンドへのわだかまりがあった。

S：最近ヤングアダルト作品では、部活ものが増えていますが、地歴部は新鮮でした。

Y：部員たちが土の部分や、コーヒーを淹れた残りかすや自転車のサビを集めたり工夫する様子から、ジオラマというモノづくりの楽しさが伝わってきました。

S：ちょうど再開発が進んでいる「渋谷」を選んだことがタイムリーで、この作品の成功につながったと思いました。読者は地歴部の部員とともに、渋谷で長年積み上げてきた生活が消えていく人々の思いに気づきます。

Y：中3の部員沙帆は渋谷で108年続くおそば屋さんの娘。ところが、100年前の写真に店がありません。その謎を解く過程で沙帆のおばあさんが重要な役割を果たします。

S：ジオラマ製作に積極的になれない健吾の心の奥にある失恋によるトラウマと転校した太陽に対するコンプレックス、部員たちの抱えている悩みなどがしだいに明らかになっていくところも興味深く読みました。

Y：この作品で私が一番新しさを感じたのは、健吾の失恋の部分です。健吾は塾で出会った希と付き合い始めますが、希は突然姿を消します。偶然、ボーイフレンドと歩いているのを見かけた健吾は、衝動的に希のスマホにある画像を送り続けます。そして、後で冷静になったとき、抑えられなかった行動を悔い、「自分の中の悪と弱さに気づいたことは、希にふられたことよりもショックだった。」と言います。スマホを持つことの怖さと思春期の少年の中にある怒りが強く印象に残りました。

S：健吾はジオラマ作りを通して多くの人と出会い、自分自身にも向き合うことができるようになります。その解決の描かれ方も納得できました。あえて言えば、顧問の本田先生と健吾の交換日記はなくてもよかったように思いました。

\* 今回のゲストは当財団特別専門員の小松聡子さん（S）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第14回「どんぐりと山猫」

「意味」で読むか、「無意味」で読むか

宮沢賢治生前唯一の童話集『イーハトヴ童話 注文の多い料理店』は、1924（大正13）年に刊行されました。挿絵は、菊池武雄です。「わたしたちは、氷砂糖をほしくらいもたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、……」という書き出しの「序」につづいて、九つの童話が収録されています。

発行所は杜陵出版部/東京光原社ですが、実際は、賢治の自費出版です。童話集の広告ちらしも、賢治の手によるものでしょう。ちらしでは、九つの童話それぞれにコメントを加えています。つぎは、巻頭の「どんぐりと山猫」について。

〈山猫拝と書いたおかしな葉書が来たので、こどもが山の風の中に出かけて行くはなし。必ず比較をされなければならないいまの学童たちの内奥からの反響です。〉

こうしたコメントは、特に研究者たちの読みを方向づけていきました。「どんぐりと山猫」で、山猫がどんぐりたちの争いをさばく裁判に呼び出された一郎の申しわたし、「このなかでいちばんばかで、めちゃくちゃで、まるでなっていないようなのが、いちばんえらい」も、「比較意識」批判と読まれたりします(続橋達雄『宮沢賢治・童話の世界』1973年)。

それに対して、「どんぐりと山猫」はナンセンステールにほかならないとしたのは、天沢退二郎です。一郎のことばのことは、「《いちばんえらい》ものという意味上の設定をいったん前提として受け入れているかにみせながら、(中略)《いちばんえらい》という概念の意味自体を無意味にした」といっています。童話集の序の「(読者には—引用者注)なんのことだか、わけのわからないところもあるでしょうが、そんなところは、わたくしにもまた、わけがわからないのです。」という一節も紹介しています(「アリス的世界・イーハトヴ」1979年)。

テキストのあちこちに様々な「意味」を読み込んでいくのか、それとも、「無意味」だとしてナンセンスを楽しむのか。これは、賢治童話に向かいあう二つのありかたです。さて、「意味」で読むか、「無意味」で読むか。

(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 74

\*\*\*\*\*

#### その10 学校でのおはなし会(6) 授業時間の場合

朝の10分間読書の時間の他に、授業時間を使っておはなし会をして欲しいという学校もあります。そしてボランティアグループの中には、45分間のプログラムをどう埋めようかと悩まれることもあるとうかがいます。

まずは、無理をしないことが大前提だと思います。つまり、学校から「45分間でお願いします」と言われても、学年によっておはなし会を集中して楽しめる時間が異なるため、例えば「プログラムは30分です。」と伝え、後の時間は先生にお任せするということです。学校図書館内で行うのであれば、自由読書の時間にしてもらうこともできるでしょうし、先生は隙間の時間の使い方にいろいろアイデアをお持ちだと思います。

しかしながら、45分使っていいと言われているのだから、ぜひ、45分のプログラムを組みたいとグループで思った場合には、45分のプログラム(前後があるので正味40分ぐらい)を考えることも可能です。

その場合、絵本やおはなしを次々と読んだり語ったりするのではなく、大きく2つのまとまりに分けて、間に少し手を動かしたり、クイズのような参加型のプログラムを入れるなどの工夫が必要です。また、前後半に一つずつは

じっくり楽しめるおはなしや絵本を入れることで、プログラムがめまぐるしく変わる落ち着いたおはなし会を免れることができます。

子どもたちに聞く姿勢ができていようなら、短編の読物などを紹介することも可能です。後半にブックトークを入れることもできますが、ブックトークは多くの本の中から本を選び、それらを子どもの興味に添って的確に紹介する必要があるため、かなりの準備が必要です。そして、その場合は、紹介された本が終了後、手に取れる状況をつくるのが不可欠です。

\*次号は「その10 学校でのおはなし会(7)」の予定です。  
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました!

\*\*\*\*\*

兵庫県立歴史博物館で11月27日まで開催されている特別展「描かれた大正モダン・キッズー婦人之友社『子供之友』原画展」に行ってきました。  
『子供之友』は、同社から1914(大正3)年~1943(昭和18)年までの30年間に357冊発行された幼年絵雑誌です。『子供之友』約190点とともに、原画約150点が展示されています。

入口を入ると、原画の迫力に魅了されます。創刊号を飾った北澤楽天や竹久夢二から最終号の深沢紅子まで多くの原画が紹介されています。時代によって判型が変わり、画家によって力強かったり、繊細でやさしい感じだったり、モダンでファッショナブルだったり画風も様々です。

楽天の擬人化されたうぐいすが着物やワンピースを着てコーラスしている絵や、岡本帰一のあひるが引く車に子どもが乗っている絵など、ユーモラスで美しい絵が印象に残りました。掲載時の詩が添えられているものもあり楽しめます。観音開きや蛇腹、フラップなどのしかけのあるページは映像で紹介されていて、手に取れないもどかしさが解消されます。

『子供之友』が年代ごとにずらりと並び、その歩みがよくわかります。表紙には子どもや動物が多く描かれていますが、シルエット画や名画紹介、動物や子どもの写真が表紙の時期もありました。

この展示は巡回展ですが、館独自の展示として入江コレクションからの特別展示「大正モダン・キッズの消費生活と童心主義文化」がありました。同時期の児童雑誌や、帝国劇場や宝塚少女歌劇の資料、博覧会の絵葉書などがテーマごとに展示され、改めて入江コレクションの貴重さを知ることができました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

● 資料展示 宮沢賢治生誕120年記念  
「メディアを横断する『賢治』-ガラス絵、絵本、マンガにみる宮沢賢治-」  
会 期：開催中~12月25日(日) 休館日あり

会 場：大阪府立中央図書館 1階 展示コーナー （東大阪市荒本）  
入場料：無料  
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 /  
大阪府立中央図書館指定管理者 長谷工・大阪協立・TRCグループ  
協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

● 特別展「描かれた大正モダン・キッズ―婦人之友社『子供之友』原画展」  
会 期：開催中～11月27日（日） 休館日あり

会 場：兵庫県立歴史博物館 （姫路市本町）

入場料：有料

◇絵本研究会シンポジウム「絵雑誌の研究 その意義と新たなアプローチ  
―「池田コレクション」、「入江コレクション」を中心に」

日 時：11月6日（日）午後1時～4時30分

場 所：兵庫県立歴史博物館 地階ホール

内 容：基調講演「絵雑誌研究の意義と課題」

講師：三宅興子（梅花女子大学名誉教授、当財団特別顧問）

・ 講 演「絵雑誌にみる印刷技法と絵画表現」

講師：香曾我部秀幸（梅花女子大学教授）

・ 講 演「入江コレクション」の概要と今後の展開」

講師：香川雅信（兵庫県立歴史博物館主査・学芸員）

・ ディスカッション

定 員：100名（当日先着順、申込み不要）

参加費：無料

主 催：絵本学会 / 兵庫県立歴史博物館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

#### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『百年後、ぼくらはここにいないけど』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.74プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は11月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

大河ドラマ人気で、真田幸村ゆかりの地が取り上げられることが多く、関ヶ原や九度山には、ブームが落ち着いた頃ふらっと訪ねてみたいと思う。連続ドラマは毎週その時間を拘束されるのが嫌でほとんど見ないが、昨今のテレビ番組、地上波はバラエティ、BS放送は、通販と韓流ドラマで埋め尽くされている…。

聞き流す だけで効果と 英会話 ならばハングル 達人の妻 (A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで  
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---